おだしか健康レポート

ODASHIKA HEALTH REPORT

― 21 ―

毎月１回掲載

年の瀬

小田原歯科医師会会長　安西　由充

年の瀬も迫り何かと気忙しい季節となりました。読者の皆さまはどのような一年を過ごされてきたのでしょうか。新型コロナウィルス感染症の感染症法上の扱いが5類へと移行したのが5月8日になります。これまで中止や延期を余儀なくされていたイベントなどは再開され、徐々に4年前の活気を取り戻しつつあります。この4年という年月は子どもたちにとって非常に大きなものになります。年末年始の短い期間にクリスマスやお正月といった高揚するイベントが目白押しで、室内で多くの人が集まるイベントになります。子どもたちは段階を踏んでいくことで健やかで大きな成長発育をしていきます。経験できなかった楽しいイベントは高揚感とともに予測のつかない行動をしてしまう可能性があります。

先月の弘中教授の窒息事故に続き、今月は朝田教授から乳歯の外傷とその対応というテーマでこの時期に起こりがちな転倒などのアクシデントへの対応が分かりやすくまとめられています。また、いざという時の歯科受診を考えて学術委員会がスマートな歯科受診についてまとめております。先月のおだしか健康レポートは、今回の記事が発行された後小田原歯科医師会のホームページ上で閲覧が可能になりますのでぜひご覧ください。

小田原歯科医師会では年末年始（12月29日～1月3日）に小田原市休日急患歯科診療所で急患対応を行っています。まずは問い合わせをお願いいたします。

それでは皆さま、良いお年をお迎えください。

あんざい・よしみつ　１９６７年生まれ、小田原市出身。日本歯科大学歯学部卒業。

ある日の経験から（会員からの提言）

よしだデンタルクリニック　吉田　太一

２０２２年は出生数が初めて80万人を下回りました。乳幼児歯科検診では、むし歯の多い子どもは減っている印象を受けます。また、以前に比べて「子どもを大切に育てる」傾向が強くなっていると感じます。お子さんに愛情をもって接することはとても大切なことですが、小児の歯科治療において近年は保護者の言動によって治療が困難になるケースができています。

さて、治療を始める前から泣いて嫌がる子どもはなぜ嫌がっているのでしょうか。初めての場所で、知らない人たちに囲まれる恐怖もあるでしょう。その場合子どもは徐々に慣れることで治療が可能になります。しかし、初めてとはいえ、あまりにも泣いて嫌がり拒否の強い子どもは保護者から事前にマイナスの情報を受け取っている場合があります。

実際、私の診療所でも最初から泣いて暴れる未就学児がいました。この時は、親の言動が障害になっていることが分かり、子どもと本人と対話して治療することにしました。保護者と離すと、最初はそれまでより強く泣いて暴れます。使う器具の説明をし、場合によっては触らせて、何をするか説明しました。時には押さえることもありましたが、安易な嘘はつかず、話しを繰り返すことでできるという成功体験を繰り返していきました。何回目か後には押さえる必要もなくなり、今では帰り際に笑顔でハイタッチするようにまでなりました。

最初からできる子どもの数倍の時間がかかりましたが、医療従事者としての使命感と子どもの成長に関われる嬉しさが原動力になりますし、やりがいを感じます。ニコニコ優しい先生が良いとは思いますが、子どもの幸せのために保護者には厳しめの指導をする場合もあります。どうかご理解、ご協力のほどよろしくお願いします。

乳歯外傷の特徴と対応について

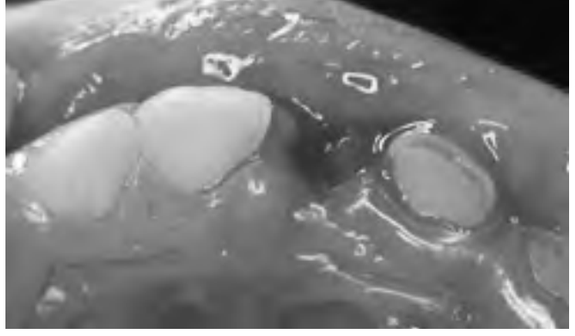
鶴見大学歯学部歯学科小児歯科学　教授　朝田　芳信

身体外傷は、その多くが転倒によって引き起こされますが、口腔領域は全身の面積の１％程度でありながら、口腔外傷は治癒を必要とする身体外傷の５％を占めていると報告されています。口腔外傷は、体面積当たりからみた受傷頻度としては最も高いといえます。そして、口腔外傷の約90％が歯の外傷になります。とくに、乳歯の外傷では、受傷歯のみならず、後継永久歯（乳歯が抜けた後に生えてくる永久歯）への影響がみられることがあるため、慎重な対応が必要になります。

実態調査によれば、歯科医院を受診する小児患者のうち、乳歯の外傷を主訴とするものの割合は約10％との報告があり、決して少ない数字ではありません。すなわち、乳幼児は歩きはじめの時期であり、重心が高く身体機能が未熟なため、転倒により顔面や歯を受傷しやすいのです。さらに、手がとっさに出ないことで顔面から転倒し、床や地面に歯を強打する重症例も少なくありません。乳歯外傷は1～3歳児で最も多く、上の前歯の外傷が90％以上を占めています。

受傷歯の状態によって、歯冠破折（エナメル質や象牙質が欠ける）、歯根破折（歯の根が折れる）、脱臼（正常な位置から歯が埋まってしまう、歯が飛び出てしまう、横にずれるなど：図1）、脱落（歯が抜け落ちてしまう：図2）の4つに分類されますが、乳歯では脱臼が最も多くみられます。脱臼といっても、その状況や程度は様々で、打撲程度のものから歯肉の中に歯が完全に埋まってしまう（埋入）ものまであります。打撲程度でも、数か月後に歯の変色（図3）がみられる場合があります。普段から仕上げ磨きの際、上の前歯の色調の変化に注意を払うことが大切です。変色した歯は、神経が死んでいる可能性が高く、長期間放置することで、歯根の先に膿が溜まってしまうことがあるからです。また、本来の位置からずれてしまい、歯が揺れている場合は、整復（歯を元の位置に戻すこと）や固定（歯の揺れを抑える処置）を行います。一方、重度な埋入では後継永久歯への影響が強く疑われるため、歯科医院を受診しエックス線検査を行った上で、対応法を検討しなければなりません。対応としては、経過観察をするか、あるいは埋まってしまった乳歯を抜去するかになります。後継永久歯への影響は、受傷年齢が低いほど、また脱臼の程度が重度なほど大きいと報告されています。そのため、乳歯外傷の対応は、永久歯への交換時期である8歳前後まで長期にわたる経過観察が必要になります。脱落した乳歯は従来再植（脱落した乳歯を元の場所に戻すこと）を行わないとされてきましたが、最近では歯の保存状態が良い、歯をしっかり固定できる状態、受傷から受診までの時間が30分～2時間以内であるなどの条件が整えば、乳歯でも再植が行われるようになってきました。

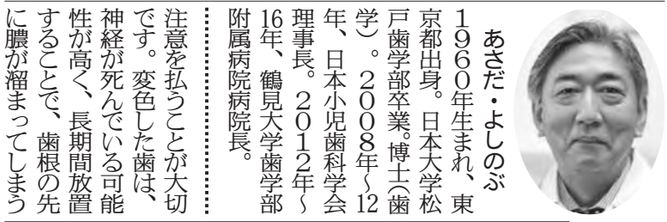
3～4歳児では保育園や幼稚園での受傷が多くなります。自宅に遊んでいる時や屋内の移動中に受傷することが多いため、特に保育室内の環境づくりが大切になります。加えて、子どもを焦らせたり子どもが殺到する状況を作らず、先走る子や遅れがちな子の確認や声掛けをすることが歯の外傷予防に繋がります。また、自宅においても子どもの行動範囲に危険要因がないよう気配りすることが大切です。物を置きすぎないことや、家具の角などにクッションを張るなどの対策をとり、階段やお風呂にも注意しましょう。



（図１）乳歯の脱臼（下の前歯が前方にずれた症例）

（図２）乳歯の脱落

（図3）乳歯外傷による変色



あさだ・よしのぶ　１９６０年生まれ、東京都出身。日本大学松戸歯学部卒業。博士（歯学）。２００８年～12年、日本小児歯科学会理事長。２０１２年～16年、鶴見大学歯学部附属病院病院長。

スマートな歯科受診を考える

小田原歯科医師会学術委員会

会員からの提言を受けて、当該会員と学術委員会により安心で効果的な子ども歯科の受診に必要なことを考えてみました。

小田原市は長く健康づくりの基幹となる健康増進計画に「脳卒中の予防」と「歯科口腔保健」を二大重点項目にしています。そのような対策も功を奏し、昭和の時代に氾濫していたむし歯は、個人差はあるものの大幅な減少を見せています。これは、むし歯の治療に苦労した大人たちが子どもにその苦労を負わせないために努力した結果であり、その努力が三世代にわたることもあります。そのような背景もあり、どうしても自分の経験から子どもに話をしてしまうことがあります。無意識であっても日頃の言動が子どもたちに刷り込まれてしまう可能性があります。ここでやってしまいがちなことを考えてみましょう。

１　治療前に歯科を怖いところだという情報を伝えてしまう

「歯を磨かないと歯医者さんで歯を削ってもらうよ！」「歯を磨かないと歯医者さんで歯を抜いてもらうよ！」「言うこと聞かないとお医者さんで注射してもらうよ！」等々、学術委員会では昭和のモチベーションと考えています。このような話をしていると、多くの場合治療する前から治療を怖がるようになります。このようなマイナスのマインドを刷り込むと大人になっても無意識に苦手意識が残ることがあります。

２　結果的に嘘になる可能性のあることを言ってしまう

「痛くないから」「お口あけるだけだから」「見るだけだから」等々、少しでも子どもを安心させようとしての気持ちから出てしまうと思います。しかし、痛みの感じ方は個人差が大きいため絶対に痛まないということは誰にも言えないものです。現代医療では極力痛みや苦痛を与えないことが常識的なのですが、痛みの状態を調べる診察もあります。

子どもの不安を和らげるための言葉なのですが、これらが結果的に嘘になる可能性があります。子どもにとっては騙されたに等しく信頼関係が築けなくなります。

３　むし歯ができたことを子どもの責任にしてしまう

「歯磨きちゃんとしなかったからむし歯になったんでしょ！」等々、発育成長過程にある小児は、様々な面で未熟なところがあります。そのため、できない部分は誰かが補ってあげる必要があります。一般に仕上げ磨きと呼ばれる保護者のブラッシングは、最初仕上げでなくメインの清掃になります。子どもの成長にともない徐々に役割が子どもに移り、自立した管理ができるようになります。

そのような観点から共同責任といえます。嫌がるから、かわいそうだからと避けて通ることが難しい課題になり、避けることが責任放棄となりむしろ子どもを過酷な状況に追いこむことになります。

３　診療所スタッフとのコミュニケーションを

保護者の方も多忙な日常での中の通院の付き添いになります。一刻も早く済ませたいという気持ちは分かります。今どのような状況にあるのか、これからどのようになるのか、辛いむし歯の治療を避けるためにも、予防を心がけていくのもスマートな受診になります。しかし、不幸にもむし歯ができたとしても一歩ずつ理解納得することで治療がスムーズに進めることになります。急な身体の動きで治療器具による損傷が懸念される場合、身体を抑えて行うことなったとしても、この段階では安全が確保されるものになります。歯科医師のみならず診療所のスタッフとコミュニケーションをとってみましょう。一刻も早く解決したいのは皆同じです、ともに向き合います。

スマートな歯科受診を考える

むし歯が氾濫していた時代には、何の説明もなく苦痛を我慢させて治療が行われていたこともありました。そのような頃から時を経て現在はその人に合わせた診療体制を組んでいる診療所が多くなりました。緊急の対応がなければ、病気の状態を説明し必要な治療方法を納得してから診療に入ります。このような対応は子どもであっても同じで、一人の人格として対応していきます。納得をし、一つひとつを確かめながら治療に入ります。このような方法では治療の進み具合に大きな個人差を生みますが、それが個々の治療のペースということになります。人の数だけ対処方法が出てくることになりますが、いくつかのポイントをおさえればスマートな受診が可能になります。

１　人と比較しない、その子を見てください

これまで述べたように、むし歯のなりやすさや治療の進み方も個人差が大きなものになります。兄弟や友だちができているからと比べても何の意味もありません。診療もその子の理解納得により進み方が変わります。

２　できたことには最大限の賛辞を

成長段階の子どもにとって、全てが初めての体験であり挑戦になります。それも大人のようにすべてを理解、納得しているわけではなく不安でいっぱいです。たとえ予定を達成できなかったとしても、チャレンジしたことを褒めてあげてください。

おだしか DAYS

11月28日（日）小田原市仮設救護所設置訓練に参加

小田原市休日急患歯科診療所
TEL. 0465(47)0825
小田原市酒匂２－３２－１６
小田原市保健センター１F
【診 療 日】日曜日、祝日、旧盆(8月14日、15日、16日)、年末年始12月29日～1月3日
【受付時間】午前9時から11時半、午後1時から３時半

小田原歯科医師会事務局

一般社団法人小田原歯科医師会は、小田原市、箱根町、真鶴町、湯河原町の歯科医師会会員で構成されています。 このホームページでは、一般社団法人小田原歯科医師会が主催、後援または協力している事業とそれに関する情報やお知らせを紹介しています。

TEL. 0465(49)1311
FAX. 0465(49)1551
〒250-0875　小田原市南鴨宮2-27-19
https://odawara-dent.or.jp/
小田原歯科医師会　検索

歯と口腔に関わるご相談、往診・歯科訪問診療のご相談は
一般社団法人小田原歯科医師会
地域支援歯科連携室　まで
TEL/FAX 0465(49)1319
月～金
午前９時～正午　午後１時～午後５時